4．地域に密着した森林インストラクターの試み

増川営林署　　宇土　和彰

1．はじめに

国有林は森林の約３割を占め、木材生産、国土の保全、水源かん養等のほか、自然環境の保全、レクリェーションの場の提供等重要な機能を果している。

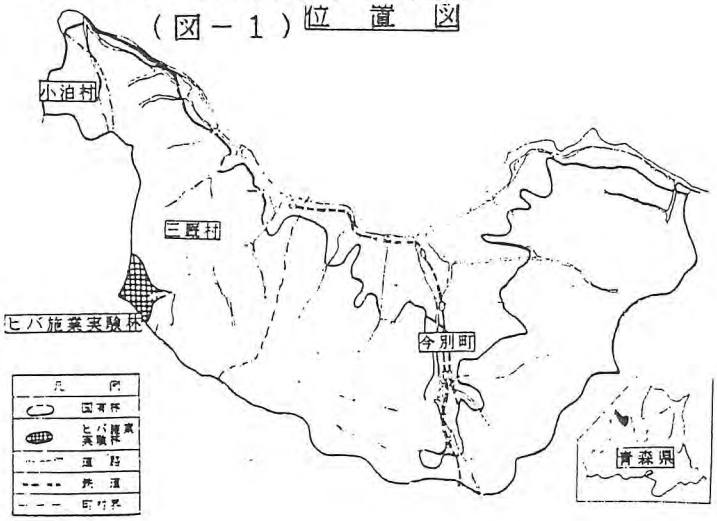
近年、登山、ハイキング自然観賞等の野外レクリェーション活動が活発化しており国有林野事業において森林レクリェーション事業が注目を浴びるようになった。このため国有林野の森林レクリェーション資源を国民の利用に提供するだけでなく、積極的に林業および国有林野に関する理解を深めるため普及、宣伝、と共に都市と農山村との交流など、幅広い森林レクリェーション活動を実施するため森林インストラクター制度が展開されることになった。その業務内容は森林教室、バードウッチング、キヤンプなどの森林レクリェーション活動のリーダーとして積極的に広く国民に緑を提供する緑の案内人として活躍することである。またその活動を通じて地域振興さらに国有林野事業の理解、ＰＲに努めることも大きな使命となっている。

このため増川営林署管内で地域に密着した森林インストラクター活動が実施できないかと考察したのが、わたくしの発表である。

2．ヒバ施業実験林の森林レクリェーション資源としての可能性

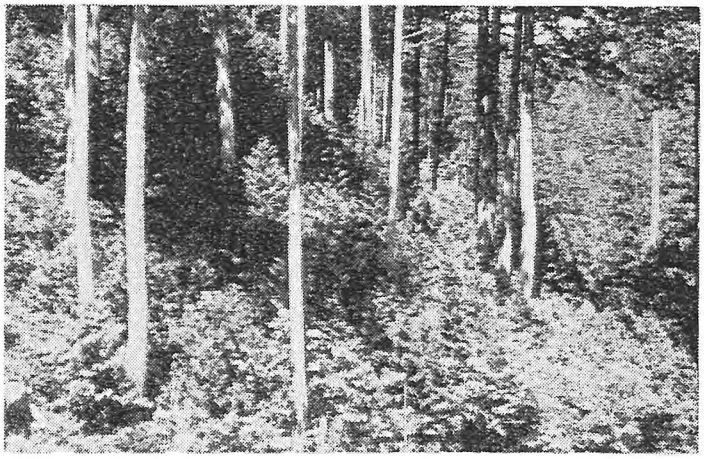
当営林署は青森県の津軽半島の北端に位置し今別町、三厩村、小泊村の一部の三町村に跨がっている。周知のとおり当署には「森林構成群を基礎とするヒバ天然林施業法」の経過的価値の実験、集約的施業の展示林の造成、ヒバに関する各種試験、研究の継続を目的とした、ヒバ施業実験林を有している。（図－１）

（図－１）位　置　図



この実験林は、これまでに、国有林野事業が実施している天然林施業の技術の確立に貢献しているため、ヒバ択伐施業方法の結果、健全な複層林を形成している。よって、この森林は日本三大美林

（写－１）



の一つである青森ヒバの優れた景観を成しているばかりでなく、林業技術のＰＲとしても貴重な森林となっている。(写-1)

そこでこの実験林を森林レクリェーション活動の場として林業技術を中心にした森林教室を催してはどうだろうかと考えた。しかしながら、その知名度は、対外的に低く、森林インストラクターの活用によって受託事業まで発展させることは、困難であると思われる。

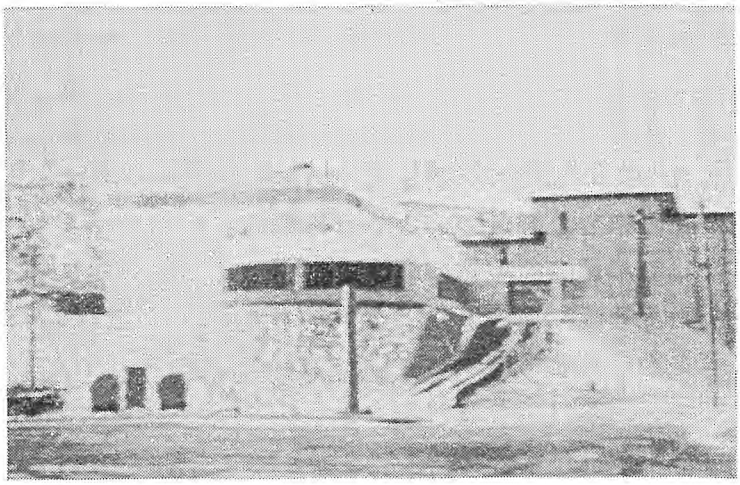
よって、まずはヒバ施業実験林のＰＲに努めることが先決であるが、実験林での森林教室だけでは、参加者の確保という問題があり、地元町村の観光施設とタイアップした森林教室を実施することが、得策だと思われる。

３．森林インストラクターの主旨に沿ったイベントの構想

（１）観光開発に取組む地元町村の現況

この地域は、青函トンネル建設の完了、と共に経済活動が低迷し、地場産業の不振、就労の場の不足等から過疎化が大きな問題となっている。そのため、各町村は、観光による地域振興を打ち出し、第三セクター方式で青函トンネル記念館をオープンさせたり、（写－２）地元負担で津軽今別駅を建設し、異月海岸を中心とした大規模観光開発計画に着手するなど、その取り組みは、各町村の大きな柱になっている。（写－３）

（写－２）



（写－３）

この結果、昭和６３年度の津軽国定公園地域別入込み数によると竜飛異月地域は、他の地域に比べ対前年比が１２１％とトップである。

また、さらなる観光開発を目指して地元商工会を中心に地域の行政、官庁、および金融機関などの、あらゆる分野からの有識者が、メンバーとなって、懇談会が開かれている。当然ながら営林署も含まれており、もはや木材供給だけでなく、地域活性化のけん引車的役割をも、期待されている。このような状況をふまえ、地元観光施設とタイアップした森林レクリェーション活動を行うべきだと思われる。

（２）この地域を訪れる観光客の動向と特徴

この地域を訪れる観光客について「青森県観光統計概要」の観光レクリエーション実態調査を基に大まかに次の七つの項目について、その動向と特徴を分析した。

(図－２)

（図－２）観光客の動向と特徴

住所別	青森県内
動機	「前に来たことがある」 「なんとなく」
交通機関	自家用車
グループ別	２～４人
構成メンバー	家族
旅行日程	日帰り
費用 （観光施設入場料 ・休憩料等） （買物・土産品）	 ５，０００円 １，０００～３，０００円

注）昭和６３年度　青森県観光統計概要による．

住所別では、青森県内からの観光客が多く、訪れた動機として「前にきたことがある」「なんとなく」であり、交通機関は自家用車を利用し、グループ別は２～４人であり、構成メンバーは家族、旅行日程は日帰り、費用の内訳は観光施設入場料、休憩料等については５０００円、買物土産品は１０００～３０００円となっている。

（３）具体的な構想

以上のことを前提にして、地元観光施設と組合せた結果、次のようなイベントの構想を企画した。（図－３）

（図－３）具体的な構想

イベント名	「日本三大美林と歴史のロマンをたずねて」
活動目的	◇国有林野事業の広報宣伝 ◇地域振興
コース	津軽今別駅前集合－袰月海岸（高野崎灯台）－ヒバ施業実験林－義経寺－竜飛岬－青函トンネル記念館－津軽今別駅前解散
参加人数	３０名程度
参加費	X　≦5,000円÷3人
対象者	一般
実施日時	夏期

イベント名「日本三大美林と歴史のロマンをたずねて」として、その活動目的は国有林野事業の広報、宣伝、地域振興しコースは、津軽今別駅前集合、袰月海岸（高野崎灯台）、ヒバ施業実験林、義経寺、竜飛岬、青函トンネル記念館、津軽今別駅解散とする。参加費は先に述べたデータにより、１グループ平均３人として５０００円を費用としていることから、一人当りの、めやすは、５，０００円／３以下でなければならないと思われる。参加人数は３０名程度とし、対象者は、一般とし、当面の広報活動は地元町村の広報紙、地元教育委員会の後援、みどりのオーナー会を通じて行うことが、考えられる。また実施時期は、緑が一番美しい夏場が適していると思われる。

（４）地域にもたらす経済的波及効果

このイベントによって地域にもたらす経済的波及効果を観光統計概要から試算してみると次のようになる。

（図－４）

最小の時は大人１名、小人２名の時であり、最大の時は、大人３名として、青函トンネル記念館入場料が、大人３００円、小人２００円であり、３００円＊１０人＋２００円＊２０人とした場合７０００円以上が期待される。また、買物土産品は、１グループ平均２，０００円であり１０グループでは２０，０００円が期待され、実質的には、最低でも２７，０００円が見込まれる。さらに理念的には２７，０００円＋αが期待され、その＋αは、国有林がもたらす地域活性化のカンフル剤となるものと思われる。

（図－４）経済波及効果の見込み

３００円×１０人＋２００円×２０人≦ Ｙ ≦３００円×３０人

７，０００円 ≦ Ｙ ≦ ９，０００円

（青函トンネル記念館入場料 大人 ３００円 小人 ２００円 グループ ３人家族）

Ｚ（買物，土産品）＝３０人÷３×２，０００円

＝２０，０００円

２７，０００円 ≦ Ｙ＋Ｚ ≦ ２９，０００円

２７，０００円＋α ≦ Ｙ＋Ｚ＋α ≦ ２９，０００円＋α

４．森林インストラクター制度の課題と問題点

このような構想を実現するとなると、誰を森林インストラクターにするのか、どのようなノウハウを持った人が森林インストラクターに成りうるのか、職務権限は、どこまでおよぶのか、などの具体的な制度が確立されていないと思われる。

したがって、この構想を実現させるためには、有志が、森林インストラクターとなって利用者のニーズと動向を細かく把握し、分析することにより、受入れ体制を整備することが必要だと思われる。

５．むすび

今後、より良い森林レクリェーション活動の確立を図るため、営林局署の皆さんからの御指導、御助言を御願いして発表を終ることにする。